

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度初めにブレインストーミングを使用して職員で目標について話し合った。その中に地域についても組み入れて理念としている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今年度初めにブレインストーミングを使用して具体的な職員目標を立てている。目の届くところに掲示して常に確認できるようにしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関にある職員の顔写真紹介の上に貼ってあり、訪問者の目にとまるよう配慮している。その他にも運営推進会議での場を活用したり、地域向けの広報誌でホームのことを掲載して理解が深まるような取り組みを行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所や民家が少なく日常の交流は難しいが、地域の広報誌から情報を得たり、ボランティアを通して交流を図っている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通じて自治会に加入することが出来た。ボランティアに来てくれるなどホームに訪問する人は徐々に増えているが、地域の活動や近隣住民との日常的なかかわりまでには至っていない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が地域の研修会などに参加して勉強する機会はあるが、地域住民に教えることは現状では難しい。		地域住民からボランティアや実習生の受け入れ要請などがあれば前向きに検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価の課題と反省点を踏まえて今年度の目標に取り入れ具体案の検討や改善に努めている。今回の自己評価も職員が2棟に分かれて具体的な話し合いを行った。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の会議では外部評価の結果を報告し委員の皆さんから色々な意見をもらい、取り組めるものから順次取り組んでいる。会議では検討項目や2ヶ月間の取り組み状況を報告、意見をいただき職員会議等で検討している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の議事録や広報誌を届けに行った際に近況報告は行っている。村の担当者がホームに来ることは少ないが、分からないことや困ったことがあれば電話で相談にのってもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実施していないが今後研修会などに参加して学んで生きたいと思う。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実施していないが今後研修会などに参加して学んで生きたいと思う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にはゆっくり時間をかけて説明しこまめに不明な点はないか聞いている。またおこりうるリスク(重度化・入院)についても家族が分かりやすい説明を心がけている。退所時には速やかな退所ができるよう心がけている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月1回村の介護相談員が訪問して入居者の話を聞いてもらう機会を作っている。それを職員側に伝えてもらい運営に役立てている。また運営推進会議内で意見を引き出すよう働きかけるが、緊張からかあまり発言をする方はいない。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族向けに広報誌を発行し利用者の暮らしぶりを紹介したり、面会時には職員が積極的に話をする機会を持ち報告を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>現在は家族会というものは行っていないが、行事などを通して家族と話をする機会を多く持つよう心がけている。また家族アンケートをホーム独自で実施しており運営に役立てている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回職員会議を開催して意見を聞く機会を作っている。会議内容で検討課題がある場合は、管理者と相談しながら職員の要望・意見の実現に努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の皆さんがゆっくりと穏やかに生活できるよう職員の勤務時間を合わせている。また急な勤務変更に対応できるよう心がけている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者との信頼関係が重要と考え基本的には職員を固定化している。異動が必要な場合は管理者と十分協議の上行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者と管理者が十分協議の上、職員の経験や能力に応じた研修に参加させている。また協会の定例会には興味がある職員に積極的参加してもらったり、順番に参加してもらうようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>村の地域ケア会議や協会の定例会に参加させ、ネットワークづくりを進めている。また協会で行っている交換研修にも参加させ、サービス向上の取り組みを行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレス解消のため飲み会など行っており、その中で職員から出た意見は管理者と相談の上、対処している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得について支援を行い、勤務成績によっては正規職員へ昇格させる人事を行っている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前の調査でご本人と面談する機会を持ち、状態の把握に努めている。また本人や家族が不安に感じている場合は、何度かホームに来てお茶飲みをしてもらったり、一週間程度通ってもらったこともある。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所相談に来られたときは家族の思いや悩みを時間をかけて聞くようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早期の入所を望んでも満床の為入所できない時は、他のホームを紹介したりケアマネと連携して他のサービス利用の可能性について検討している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所に至るまでに何度かホームに通ってもらい雰囲気になじめるようにしているが、やむを得ずすぐに入所になった場合は家族に宿泊してもらうなど不安の軽減に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活の中で入居者の皆さんの気持ち、感情を大切にしながら、できるだけ一緒に家事を行い、職員が入居者から教えてもらう場面作りも心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	週1回程度の面会や行事にも参加していただいている。その中で入居者の皆さんの様子を伝えていくことで良い信頼関係ができています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	問題を抱えていた入居者と家族が、入居することで一定の距離間を保つことで関係が改善された一例あり。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人から尋ねてくることはあるが、こちら側から尋ねることはほとんど無い。しかし外泊された入居者が親戚に会いに行くことはある様子。	○	職員体制の余裕があるときは出来るだけ要望に応じてあげたいので、毎日の生活の中で希望を引き出すよう心がけたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その時の気分や感情、体調に合わせた対応をしている。皆で体操したり手作業をする時があれば、一人で過ごしたい時もあるのでその時々で対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームから退所する場合は入院するか、他施設へ入所される方が多く、本人や家族との継続的な関係を保つことは難しいのが現状である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で希望や要望を話してくれる入居者については把握しているが、自分の意思を言葉にしづらい入居者については把握が難しい。その場合は家族などに聞くようにしており、ケアプランの内容に反映させている。	○	自分の意思を伝えることが難しいと決めつけずに、聞く機会を作っていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、情報はあがるが具体的に把握が出来ていない。	○	夜勤の時間を利用してしながら1ヶ月に一度は入居者記録を確認する。主に会話の中で本人から知る機会を作っていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者記録を参考にしつつ、そればかりにとらわれず現在の力を引き出すように努めている。一日の過ごし方、心身状態はチャートに記録し職員が共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を踏まえて担当者がプランを立案し、その他の職員がプランを確認して意見と出している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に職員が対応するために週末会議や職員会議の場を利用して、アセスメントし継続が必要なときはプランに取り入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いたことは詳しくチャートに記入し情報を共有するため申し送りで伝達している。介護計画はケアチェック表、チャートを参考にしながら見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により医師の往診の他、看護師が訪問する機会が増えた。それにより日常生活の健康管理が強化され、症状に対して早い時期での発見・対応ができ入院のリスク軽減になっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には運営推進会議に参加してもらっているが、その他の機関との連携は現在のところあまりない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域ケア会議や運営推進会議を通じて地域の色々な事業について教えてもらう機会がある。入居者一人ひとりにあったサービスは何か検討していきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域ケア会議に地域包括支援センター職員が参加しており、地域の情報交換などを行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は同一法人内の医師が往診に来るため入居者全員の主治医となっているが、専門科目以外の病気については他科受診などで対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員同士で日々の対応や記録で個人情報の漏れに努めているが、実際は記録の面で個人名が出てしまう場合がある。	○ 記録での個人名をイニシャルで表示し、個人名が出ないようにプライバシーの確保に努める。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	献立の中でお好みメニューを設けてその日のメニューを考えてもらっている。また食事準備の時に作り方や切り方、味付けを一緒にする機会を作ったり、更衣の際に着るものを本人に選んでもらう場面作りをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の希望に沿うように努めているが、業務内容や他の入居者との兼ね合いで希望に添えない場面もある。	フリーの職員を活用しより多くの希望に沿うように努めている。またその場面で対応できなくても機会をみて実行している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	残存機能を活用しながら出来ない部分を支援している。(洗顔、身だしなみ、着衣の選択、洗髪等)	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を通じて献立作り、買い物から調理、食べる、後片付けまで入居者と共に協力しながら進めている。	それぞれの場面で入居者の気持ちを自然に引き出されるよう職員の工夫が必要である。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	献立の中で週2回入居者が希望したものを取り入れたり、買い物の時に個人の嗜好品を購入する機会を作っている。その他にも誕生会等の献立でも希望のものを取り入れている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハビリパンツや尿とりパットの使用頻度を抑えるように心がけ、布パンツの使用を基本にしながら、個人の状況に合わせてパット等を使い分けている。トイレへの声かけにも他の入居者に気付かれぬよう配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後になっているが入居者の希望に応じて夕方に入ってもらするなど柔軟な対応を心がけている。また男性の介助を嫌がる場合は女性職員が介助するようチームプレイで対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転の入居者の方には午前中休んでいただき、午後は活動してもらうことによってせいかつのリズムを整えている。夜間眠れない人には温かい飲み物をお出しするなどの対応をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	長年買い続けている宝くじを買いに行く方の援助したり、個々のできそうなことを試したりと楽しめる工夫をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいと希望する入居者には小額の金額を管理してもらっており、使いたいという場面では希望に沿うよう配慮している。また今後金銭を所持したいと希望された場合には随時検討していく。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	遠出のドライブへ行ったり個々のストレスに応じて外出したり、入居者のなじみのスーパーへ買い物(週4回)に行ったりして気分転換の支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホーム全体の取り組みとしては、温泉やイチゴ狩りなどを企画し外出しているが、個々の部分については正月、お盆などの外泊、外出を家族にお願いしている。	○	入居者の方の希望があったときには職員を通じて家族にも伝え家族とも協力しながら実現に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	働きがけはしていないが希望ある方には状況みながら(夜間、個別の理由に応じて)支援している。また毎年年賀状を家族へ送っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会を歓迎しており、主に居室で話をしたりお茶のみをすることが多い。希望があれば家族の宿泊にも対応している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないが禁止事項についてこの話し合いで再確認した。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝の2時間は家族に了解を得て居場所確認のため玄関にセンサーを取り付けるときもあるが、日中は自由に外出できる支援をいっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	申し送りで個々の状態を伝達しており、職員で声を掛け合って把握に努めている。夜間は見守りしやすい位置で見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	普段あるべき場所に置いてあるが、活気があり異食などの行為がある時は危険防止のため物品を移動している。	○	危険防止の取り決めで対応の統一のために職員で話し合っ行ってきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災については年2回避難訓練を実施して万が一に備えている。事故については、発生後速やかに事故報告書を作成し、全職員が目を通すようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	他ホームで開催された救急講習に参加させてもらい訓練を行った。またその他の応急手当についてもクリニックの看護師に指導してもらっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	民生委員に避難訓練へ参加してもらっている。また防災ハザードマップにホームのことを載せてもらう予定をしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には主に入所する時に本人の状態に合わせてリスクを説明している。また心身の状態に変化がみられた場合は、その都度説明している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで体調の変化を確認したり、入浴などの皮膚状態が把握しやすい時を利用して発見に努めている。異変があった場合は申し送りで情報共有したり、週1回の医師の往診、訪問看護時に状態報告して指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方になった薬は薬剤情報を確認するようにして、内服後の体調変化がないか状態観察に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく食品で自然排便を促すため週3回玄米粥を全員で摂取していただき、特に便秘気味の方には牛乳寒天を毎食後に摂取していただいている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で磨ける方には声かけや見守りで行っていただき、出来ない方には介助して清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時摂取量の記録を残し職員間で情報を共有している。食事が低下している方や糖尿病の方の食事について法人の栄養士から指導やアドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	クリニックと連携を図りながら予防に努めている。またホーム内に感染症に対する取り決めがあり職員間で統一している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士の指導を仰ぎながら衛生管理に努めており、職員で統一するよう取り決めがある。また残った食材はすぐに使ったり、調理したものは残さずその日のうちに処理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム周辺に花を植えたり畑を作ったりと手入れをして親しみやすい環境づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外気浴を楽しみたい方に対して玄関先に椅子を置いている。また使い慣れた食器などを置いたり、好きな時にお茶が飲めるように茶葉を見えるところに置いている。ホーム内の空間は清潔に保ち、テレビの音量などに配慮しながらゆったりと過ごせるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席以外でソファなどの椅子を利用して気の合う方同士で話せるよう工夫をしている。上記同様だが、玄関先の椅子も自由に使用できる環境を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に馴染みのある物や家具を持ち込めることをパンフレットに載せて説明している。また家族と相談しながら馴染みの物を準備して過ごしやすい環境になるよう心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内に温度計や湿度計を設置してホーム内の温度調節に気をつけている。また特に冬場は空気の換気をこまめに行い、空気のだよみが無いように気をつけている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物はあるが職員の見守りで対応できている。個々の身体機能に応じた動線を考慮した居室作りを工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱しやすい方については分かりやすい目印を貼ったり、見守りや必要に応じて声をかけるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に花を植えたりして水やりができるようにしたり、玄関先にベンチを設置して日なたぼっこしたり、畑の収穫も出来るよう援助している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)